



11/8～9 定期テスト対策1000分特講 22名が参加 半数以上の方が過去最高点かそれに近い結果だった



11/15 中3生重要な単元の関数特講の第2回目 何か楽しそうな人もいます



11/22 中3生 みんなが苦手な理科の電流特講。午前中は栗野君の授業で午後から問題を解く。



11月実施の道コンと学力テストの結果をふまえて一人一人と面談し、志望校の確認と取り組み方を話した。



26日 根室育英塾の岸部塾長が根室名物の甘太郎の肉まんを生徒にと買ってきてくれたので電子レンジで温めて食べた。(上3枚)
4期生の小路紀幸君も久しぶり。入試用のテキストを見て、感慨深そうに。あつという間に35歳。



2期生の三ツ石さんが久しぶりに来てくれた。附属中の2年生が修学旅行で長崎を持って行く千羽鶴を折るのを手伝ってもらった。塾生にも折ってもらったら勉強よりも一生涯懸命・・・？小学生の皇誠君も真剣な顔で。



三ツ石さん(中)21期生の増山さん(左)と石川さん(右)は三人とも芦野小、美原中、湖陵高校。偶然だったのでとりあえず記念に写真を撮った。

★入試まであと90日あまり★
いよいよ12月。1、2年生は定期テストが終わり、3年生は学力Cテスト、学力コンクールも終わりました。その結果をふまえて3年生には、塾独自の資料を基に個別に面談を行いました。入試まで90日あまり、これから本当の受験勉強が始まります。学力A・B・Cや道コンの結果で志望校を変更する必要があります。それらの結果から志望校へ向けての課題を見つけ、弱点を集中的に学習することで30点から40点(1教科6～8点)のアップを目指します。
23日からは冬期講座に入ります。毎年、本気で志望校を目指す人たちは、毎日、朝9時から6時まで1日9時間、塾で勉強してきました。その結果、ステップゼミナールの卒業生はFランクまでが湖陵、Gランクまでが江南や高専、Hランクまでが北陽高校に

合格しています。「行きたい」、「行ければいいな」では志望校に合格することはできません。当たり前ですが受験しなければ行きたい高校へは入れません。無理をして入ってもついていけない、志望校を下げて上位にいた方がいいという話を聞きます。塾の卒業生を見る限り決してそんなことはありません。1月27日に出席状況が発表され、2月3日まで志望校の変更が可能です。自分の人生を左右するかもしれない十五の春に向かって楽な道を選ばずに、覚悟を決め、必死で勉強することで得られる達成感や充実感はその後の人生に大きく影響します。学力だけが評価される時代ではありません。目標に向かって自信を持って取り組んでいきましょう。

定期テストの結果では、一〇〇〇分特講の参加者の内、半数の生徒が過去最高点でした。二日間で17時間近くテスト範囲の問題を解く。しっかりと目標を持って取り組めば結果に繋がるといことです。テストが終わっても気を抜かず、次に向かって毎日、積極的に勉強することが大切です。まもなく冬休みに入ります。中一、二年生も冬期講座は、およそ1学年分を締めくくるとなると大事な講座です。苦しい教科や単元を克服できるように意識して取り組まなければなりません。成績が向上する人は目標に向かって塾の指導通り、やらなければならない事をきちんとやる人です。今できること、今やらなければならない事を、やるかやらないかが大きな差になります。一年後、二年後、そして将来の自分のためにがんばりましょう。

★第二回漢字検定合格者★
準二級 諫山莉奈(中2)・土井優奈(中3)
三級 谷口勇大(中1)・姉崎優子・富岡茉紘(中3)
五級 谷口充汰・藤田勇人(小6)・山岸冬弥(中1)・椎野彩乃・國分耀太(中3)
六級 川村啓太(中1)
七級 成瀬和(小4)
今回の漢検では32人中18人が3級から2級の高い受験級だったため、ほぼ一ヶ月間、漢検の対策に取り組みましたが合格者は12名だけでした。合格率は38%と過去最も低い合格率でした。すべての教科の基礎となる読解力をつけるには、まず漢字力と語彙力が必要です。日頃から漢字の勉強をしつかりやっておくことが大切です。同様に、英語も単語力です。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
							■冬季講座1・2年スタート	■冬季講座3年スタート	冬期講習準備休み	休塾							休塾	●中3ナビ模試						休塾	★中3土曜特講(確率・作図)					附属2年修学旅行(1・4)

携帯電話の
教室内持ち込み禁止
携帯電話の持込は禁止。
連絡は塾の電話を使用
して下さい。

12月の予定

就活力:親の「適切な」サポート重要

就活で精神的に追い詰められる学生が多い中、親のサポートは重要になっている。だが、企業に直接連絡するような過保護や価値観を押しつけるような過干渉はかえってマイナスになる。

「うちの子はどうしてだめだったんですか」

電機大手の採用担当者は、不採用を連絡した就活生の親からこんな電話を受けたことがあると明かす。「うんざりしたかって? いえ、落として正解だったと確信しました」

大学や企業の関係者によると、就活の現場に親が介入するケースは近年「少なからずある」という。就職支援会社ディスコ（東京）の昨年2月の調査によると、学生の親から直接連絡を受けたことがある企業は15.9%、従業員1000人以上の大手では22.6%もあった。中身は、選考内容や入社後の待遇の問い合わせ、採用活動のクレームなどさまざま。

●「ヘリコプター親」

首都圏の私立大キャリア教育担当者は「モンスターペアレントというよりヘリコプターペアレント」と分析する。上空を旋回するヘリコプターのようにわが子の行動を常に監視し、何かあれば救いの手を差し伸べるイメージ。米国で親の過保護ぶりを示す造語として広まった。

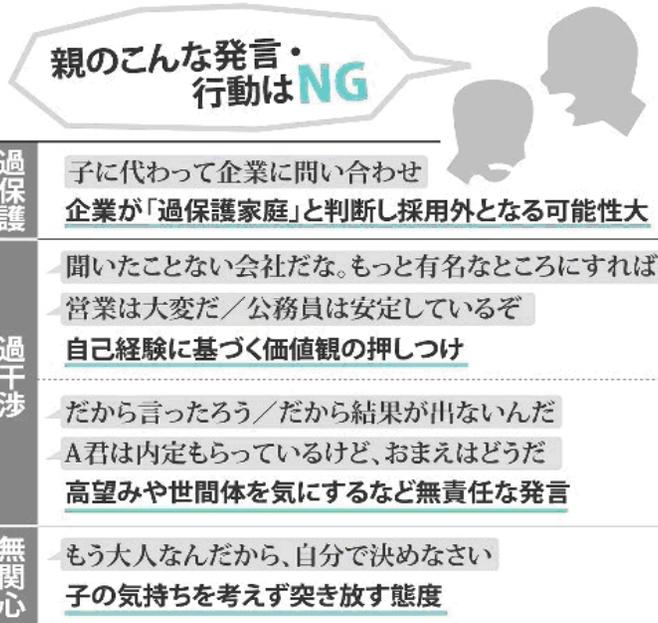
背景には、就活を「子育ての総仕上げ」として捉える潮流があるようだ。教育情報サービス会社、大学通信（東京）の安田賢治常務によると、08年のリーマン・ショック以降、就職を重視する保護者主導で子の進学大学を決める傾向が強まっており、就職率が上がった大学は翌年の入試倍率が上昇する相関がある。「出口としての就職に親の関心が高いのは当然」というわけだ。

だが、行き過ぎた介入は明らかにマイナス。企業の採用担当者の間では「選考過程で親がしゃしゃり出たら即アウト」はほぼ常識化している。親が過剰介入するような家庭であれば、その後、職場でのトラブルに発展する可能性が高いとみて敬遠するためだ。

ただし「親の適切なサポートはますます重要になっている」と大学の就職担当者は口をそろえる。足元は売り手市場に転じているとはいえ、親世代と比べれば就活は厳しく、自分に自信がない学生は、精神的支えを求めているためだ。専修大就職部の高橋力次長は「進路がなかなか決まらない学生をみると、親子のコミュニケーションが円滑にできていないケースが多いように感じる」という。

もし、子が挙げた会社の名前を自分が知らなかったらどうするか。専修大の保護者組織「育友会」担当の庄菊博教授は「何の気なしに『知らない会社だね』と言ってしまえばミスリードになる。まず、ネットでその社名を検索し、どんな会社なのか自分で調べる。親はまず子を理解する存在であってほしい」と話す。【渡辺精一】

志望する企業にエントリー後、大学・学部によって企業説明会への参加が制限されるなど、学歴で、あらかじめ採用を絞り込んでいること。ネット上の就職ナビ経由でエントリーするのが一般的だが、人気企業には数万通の応募が殺到し、すべての選考を行うのは物理的に無理だという事情もある。ただし、人材コンサ



※大学就職／キャリア教育担当者からの聞き取りをもとに作成

●干渉せず助言を

親は就活にどう向き合うべきなのか。高橋次長は「相談に乗るが、口出しはしない」が基本と説明する。親子で就職について話すことは学生の自己分析を深めることにつながる。社会経験のない学生は断片的な情報に踊らされがちだが、仕事の現場を知る親の経験で、補うことができる。

ただし、価値観の押しつけなど過干渉は避けたい。無理に誘導することは避け、決断は本人に任せるのが大原則。高望みしたり世間体を気にしたりといった親の発言に、子は深く傷ついていることもあるという。

もし、子が挙げた会社の名前を自分が知らなかったらどうするか。専修大の保護者組織「育友会」担当の庄菊博教授は「何の気なしに『知らない会社だね』と言ってしまえばミスリードになる。まず、ネットでその社名を検索し、どんな会社なのか自分で調べる。親はまず子を理解する存在であってほしい」と話す。【渡辺精一】

■ことば ◇学歴フィルター

志望する企業にエントリー後、大学・学部によって企業説明会への参加が制限されるなど、学歴で、あらかじめ採用を絞り込んでいること。ネット上の就職ナビ経由でエントリーするのが一般的だが、人気企業には数万通の応募が殺到し、すべての選考を行うのは物理的に無理だという事情もある。ただし、人材コンサ

ルティングのHRプロ（東京）の調査によると、重点採用する「ターゲット大学」を設定する企業は2014年春採用の52%まで拡大傾向にあったが、15年春採用は44%と低下している。就活が売り手市場化している影響といえそうだ。

毎日新聞 05.26 東京朝刊

女子高生は自殺した

「レスキュー隊呼んどけ」と同級生から脅され、身体特徴を揶揄され…惨猛「LINEいじめ」、学校も親もついてゆけず

スマートフォン向け無料アプリ「LINE（ライン）」を悪用したいじめが教育現場で深刻化している。文部科学省が発表した平成25年度の問題行動調査では、携帯電話やパソコンでの誹謗（ひぼう）中傷などのいじめが前年度から約1千件増え、8787件（前年度7855件）と過去最多になった。スマホ普及に伴い把握は一層難しく、自治体や学校では対応し切れていないのが現状だ。



LINEの書き込み、転載されトラブル

《レスキュー隊呼んどけよ》

昨年6月28日、熊本県の公立高校に通う2年の女子生徒のLINEにこんな書き込みがあった。身体に危害を加えることをにおわせる脅迫じみた内容だ。

女子生徒は寮生で、脅迫を書き込んだのも同級生に暮らす同級生だった。母親が書き込みを見つけ、すぐに担任教師へ相談。担任から連絡を受けた寮監の教師が7月8日に生徒ら2人を話し合わせ、「仲直りさせた」（熊本県教育委員会）かに見えた。だが、女子生徒は夏休み中の8月17日、自宅で首を吊り、自ら命を絶った。

県教委によると、女子生徒が寮での雑務の不満をLINEに書き込んだことが発端だったという。書き込みを目にした別の生徒が、脅迫を書き込んだ同級生とのLINEに転載し、トラブルになった。自殺した女子生徒のLINEには、身体的な特徴を揶揄（やゆ）するような書き込みも残っていた。無断で女子生徒の携帯電話を操作したり、卒業アルバムへの落書き、入浴用品を隠すなどのいじめがあったことも分かっている。

LINEでのいじめは周囲からの確認が困難

「LINEいじめ」。パソコンなどインターネット上を「現場」としたいじめは「ネットいじめ」と呼ばれるが、近年、爆発的に普及したスマホでLINEを悪用したいじめが特に深刻化している。ネットいじめは、これまでも「学校裏サイト」と呼ばれる、子供たちが立ち上げた匿名掲示板などで問題化した経緯がある。裏サイトでは、特定の生徒らを無視したり、悪口を書き込むなど悪質化している。

ただし対策がないわけではない。各自治体や学校などの担当者がネット上の掲示板などを巡回し、悪質な書き込みを削除しており、一定の効果を上げてきた。これに対しLINEいじめは、児童や生徒同士の個別の通信で、文科省は「周囲から確認するのが難しい」と説明する。

前述の女子高生の自殺があった熊本県教委の担当者も「LINEいじめへの対策が追いついていないのが実情だ」と打ち明ける。

文科省による25年度の問題行動調査によると、いじめの認知件数は小・中・高校と特別支援学校で計18万5860件となり、前年度より1万2千件余り減少した。一方、ネットいじめは前年度から1千件ほど増え、8787件に上り過去最多となった。認知件数全体に占めるネットいじめの割合は、小学校1.4%（同1.4%）▽中学校8.8%（同5.8%）▽高校19.7%（同14.8%）となり、高校では2割近くに上っている。

「スマホ禁止」逆効果の恐れも

「閉ざされた空間では、誹謗中傷へのブレーキがかかりにくい」

ネットいじめ防止対策を進める「全国webカウンセリング協議会」の安川雅史理事長は「LINEいじめ」の特徴をこう指摘する。声を出して会話するコミュニケーションよりも、LINEの書き込みによるコミュニケーションがメインになっている子供もいるという。

こうした現状から、小学生らのスマホ所持規制の試みも増えている。たとえば、鳥取県米子市小中PTA連合会は1月、「ケータイ・スマホ等に関する緊急アピール」を作成した。アピールでは「私たちは、子どもをインターネットの弊害から守るために『小中学生にはケータイ・スマホ等を持たせません』」との宣言が明記されている。

だが、安川理事長は形式的な禁止に警鐘を鳴らす。

「LINEの楽しさを覚えた子供は禁止されれば反発する。スマホが禁止されれば、音楽プレーヤーでLINEを使うこともある。形式的な禁止は、むしろLINEいじめに気付いた保護者が学校から叱責されるのを恐れ、届け出にくい状況をつくる可能性もあり、いじめのエスカレートを招く傾向もある」

対策の要点は、子供たちにLINEいじめの問題点を納得させることだ。安川理事長は「保護者や教師が、LINEの利便性と問題点を十分に理解した上で、家庭や学校で子供たち自身に徹底的に話し合いをさせ、自覚を促すことが必要となる」と話している